

九重ここのへの都と称するは、周礼匠人職に出たり、匠人營_レ国方九里旁三門國中九經九緯云云。註云、方九里は周の代の天子の都の広さなり、四方に三門づゝありて合て十二門なり、十二門は通じて十二支とす、國中といふは皇城にして宮城の事にあらず、經緯とは道条にして南北を經とし東西を緯とす、一門毎に三条の道ありて東西おのゝく九条あり、是を九重といふ、都とは華の訓なり、花洛ともなづく。

月清集 昔より都しめたるこのさとはたゞわが国の最中なりけり 後 京 極

玉 葉 雲の上こゝのかさねのやどの春嵐もしらぬ花ぞ長閑き 院 御 製

夫 木 こゝのへや玉しく庭のむらさきの袖を貫る千世の初春 俊 成

洛陽らくやう 〔尚書洛誥篇に出たり、弘安国こうあんこくの註に、澗水の間にして南は洛水らくすゐに近し。又爾雅に、山南水北を陽といふ、洛

邑いふは洛水の北にあるゆへ洛陽となづく、後漢ごかんの時都を洛陽らくやうに移すと云云。本朝いにしへは左京を洛陽となづけ、右京うを長安となづく、長安の名義は前漢ぜんかんの長安城より出たり、今都て京師を洛陽といふ〕

大内裏だいだいり 〔拾芥抄京程の図に云、南北十町一条より二条に至る、東西八町東大宮より西大宮に至る。又平安旧図考に

精し〕

夫 木 我国の数の郡のうちにしもをたぎの里のおほみや所 公 朝

続古今 すべらぎの位の山の小松原ことしや千代のはじめなるらん 中務卿親王

月 清 むらさきの庭のはる風のどかにて花に霞める雲の上哉 後 京 極

鶯宿梅あうしゆくばい 〔伝云、此梅は古西京紀貫之きのつらゆきが家にあり、後世寺となし林光院りんくわうあんとなづく。応仁の後相国寺の池にうつす、鶯

宿梅の残種今方丈の庭に移し植る〕

大鏡曰 天暦の御時、清涼殿の御前の梅の木の枯たりしかば求させ給ひしに、西京に色濃咲たる木の侍りしを掘とりしかば。家のあるじ出て、其木に是ゆひ給ひてまいれといはせたまひしかば、あるやうこそはとてもて参り候しを。何ぞと御覧じければ、女の手にて書て侍りける。

拾 遺 勅なればいともかしこし鶯の宿はととはゞいかゞこたへむ

とありけるに、あやしく思召れて、何者の家ぞと尋させ給ひければ、貫之つらゆきのぬしのみむすめの住所なりけり。

曙桜あけぼのざくら 〔上京鞍馬口通小山口間臥庵かんぐわあんにあり。後水尾帝ごみづののみかどの御製によつて名とす。当庵は禅宗にして、開基は黄檗六代千

呆和尚がいがい、中興は伯はくじゆん和尚。仏殿釈迦仏、観音、地藏を安ず〕

かすみ行松は夜ふかき山の端にあけぼのいそぐ花の色哉

後水尾院

後水尾院尊影〔当庵方丈に安置す。林丘寺普明院の御筆画影二尺余、宝篋院女宮の御讚あり、此帝の御製によつて曙寺ともいふ〕靈符神社〔当庵にあり。金銅の像長四尺六寸、むかし安倍晴明勅をうけて開眼する所なり。靈驗日々に新にして常に詣人多し、近年社檀建立ありて美麗なり〕

五所八幡宮

〔同街山口間臥庵の東にあり。祭る所は筑前大分、肥前千栗、肥後藤崎、薩摩新田、大隅正八幡、已

上これを五所の別宮と号し、遠境なるゆへ、後柏原天皇勅して此地に遷し給ふ。神祇拾遺に見へたり。近年足利家の花の御所に效て御所八幡とも称す。社内に禅刹あり、絶海禅師の開基にして東寓寺といふ〕

上善寺

〔同街にあり、浄土宗知恩院に属す。開基は春谷盛信上人、後土御門院、後柏原院両帝の戒師なり〕

本尊阿弥陀仏〔行基の作、坐像三尺余、古へは嵯峨今林蓮華清浄寺の本尊なり。寛永十一年九月九日後水尾院の勅によつて当寺にうつす〕善光寺如来画影〔化人の筆、是いにしへの本尊なり。後柏原院叡覧あつて勅願所不断念仏之道場の宣旨を賜ふ、執達は万里小路秀房卿なり〕

〔当寺は鎮西派末院の大廈にして、塔頭寺内に十院あり。方丈客殿等の庭中真妙にして奇石麗樹多し、中にも藤の棚連

ね組て弥生の美観とす」

万松山天寧寺〔京極通鞍馬口の南にあり、古へは天台宗、叡山の末院なり、今曹洞宗。開基は祥山和尚、松平伊

賀守侯資料を寄て再興す〕

西園寺〔同所天寧寺の南に隣る、浄土宗知恩院に属す。開基は覚勝上人。初は北山にありて西園寺公経公の建立に

て、美麗の体増鏡に載たり、今に西園寺家檀越たり〕

本尊阿弥陀仏〔恵心の作、坐像六尺許、四十八願巡の第十四番なり〕

地藏尊〔寺門に安置す、恵心の作、坐像六尺許〕

威王山長福寺〔同街条違橋の北にあり、宗旨四宗兼学。開基無人如導、花園院正和元年に建る所なり〕本尊不動

尊〔菅家の御作、立像一尺九寸、初は岩屋山奥院の本尊なり〕